

「待遇表現」としての「～(さ)せていただく」に関する一考察

宇都宮 陽子

キーワード

「～(さ)せていただく」・待遇表現・行動の許可者・恩恵・本来の意味

1. はじめに

相手から自分に与えられた恩恵的な許しを行動に移す場合、その行動主体の発話に「～(さ)せていただく」の使用が多く見られるが、近年、日本語母語話者におけるこの表現の拡張的な使用¹への批判や議論が数多くある。「～(さ)せていただく」の用法上の問題点は、多くの母語話者が感じているものであり、また多くの日本語学習者を混乱させてもいるものだと考える。現時点において「～(さ)せていただく」には、母語話者の立場からも使用範囲、許容範囲に大きなゆれがあると予想するが、用法の変化に伴って、その本来の意味の規定を見直す必要があるのではないだろうか。この問題意識から、本稿は、新聞記事の使用実例を調査し、「～(さ)せていただく」の現在の意味と、適切な使用基準を考察するための基礎研究となることを目的とする。また、ここから「～(さ)せていただく」という表現について日本語学習者へより適切に導入するための問題点と改善案の方向を考えるものである。さらに、これを基礎研究として、より良いコミュニケーションとその教育を目指すための一つの方向として、日本語教育に取り入れられるような形にまとめていくことを大きな目標にしたいと考えている。

2. 先行研究

菊地(1997-a)は、「～(さ)せていただく」を本来〈「どうしてもよい」という恩恵/許可を得て何かを「させてもらう」ことを、恩恵/許可の与え手を高めて述べる〉表現であるとして、恩恵/許可の度合いにより4分類を行っている。

- (I) (本当に) “恩恵/許しをいただく” という場合「させていただく」の最も基本的な使い方である。例「先生の本を使わせていただけませんか」
- (II) “恩恵/許しを得てそうする” と捉えられる場合 (I) を拡張した使い方である。例「出席させていただきます」「一言ご挨拶させていただきます」
- (III) “恩恵/許しを得てそうする” と(辛うじて)見立てることができる場合 説明のつく範囲の使い方である。例「一緒にテニスをさせていただきました」

(Ⅳ)「恩恵／許しを得てそうする」とは全く捉えられない場合 単に〈何かを「する」ことを、自分を低めて述べる〉使い方である。例)「新製品を開発させていただきまして」

そして、(Ⅰ)―(Ⅲ)のどこまでを○とするかは、〈程度／好みの問題〉であるとしたが、(Ⅳ)は(Ⅰ)―(Ⅲ)とは一線を画する使い方であり、規範的には〈(現時点では)誤り〉だが、規範を離れて述べれば〈新しい用法(=謙讓語B²としての)〉であるとしている。

李(1998)は、文藝資料の分析調査による史的変遷を踏まえた研究を行っている。その結果、明治・大正期までは菊地(1997-b)による謙讓語Bの性格を持つ「～(さ)せていただく」が稀であり、相手を敬い自分を謙る謙讓語Aが主であるのに対し、昭和期になるとこれらが半々の頻度で登場していることが明らかになったとされている。そして昭和期を経て現代に至るまでに謙讓語Bの用法が若年層を中心に増えてきたとしている。近年、若者の間で広く使われている用法は、「恩恵」、「相手の許可の有無」などは真剣に考えない一つの「単に聞き手に配慮する」語形として丁寧語化していく傾向が強いことも指摘されている。

蒲谷(1999)では、「～(さ)せていただく」を本来は「～(さ)せる」という「使役・許可」と「～ていただく」という恩恵を受ける意味を表す「～てもらう」の敬語形とが合わさったものとし、「～(さ)せていただく」の接続形式を文法的に三つのタイプに分類した上で、丁寧な言い方にする適当な方法が他にない場合の使用の問題点について指摘した。

3. 分析の範囲と枠組み

本研究が対象とするのは、「～Saせていたk一」に活用語尾を付けた表現形式³全般であるが、これらの総称を便宜的に「～(さ)せていただく」で表記する。分析の枠組みとして、蒲谷他(1998)による「敬語表現」を考えるための枠組み⁴を用いる。

4. 「～(さ)せていただく」の規定

4.1 「～(さ)せていただく」の構造

①「ある行動を行う許可を得た表現」+②「恩恵間接尊重」⁴+活用語尾

本研究では、問題になるのは「～(さ)せていただく」を使用したときに、①の意味と②の「恩恵」の意味があるかどうか、という点であるとする。①において「許可を与えると想定される人物」を「行動の許可者」と名づけ、表現形式全体の「行動」の「決定権」を持つ人物と分けることにする。「行動の許可者」(「許可者」)は「…に～(さ)せていただく」の「…」の部分に入る人物だと想定できる。

例：「先生のビデオカメラを使わせていただけませんか。」

では、表現形式「～せていただけませんか」、表現意図は「許可求め」となるが、ビデオカメラを使わせる「行動の許可者」は、「使わせる」許可を出す人物の「先生」、「行動の決定権」も「いただけませんか」という問いに対して決定する権利を持つ「先生」、ということになる。

例：「先生のビデオカメラを使わせていただきます。」

では、「表現形式」は「～させていただきます」、「表現意図」は「宣言表現」、「行動の許可者」は「先生」であるが、「行動の決定権」は宣言を行った「自分」にある、ということになる。

4.2 「～(さ)せていただく」の「本来の意味」

「～(さ)せていただく」の構造を基に、「本来の意味」を規定した。

「～(さ)せていただく」の「本来の意味」とは、上記①、②の意味と性質である、

① 「行動の主体である自分」が「行動に関係する人物」(＝「行動の許可者」または「許可者」)に、その行動を行う「許可」の意を得る(または得た)

② ①に「恩恵」を感じ、「行動の許可者」を高くし、「自分」を高くしない、を兼備したものである。

「本来の意味」は、次のような点で、従来の意味記述とは異なっている。

- ・「行動の許可者」を、「行動」の「決定権」を持つ人物と分けて明示した点
- ・「恩恵を受ける(受けた)」と、「行動の許可を得る(得た)」を分けて考えた点
- ・「相手」を高くするとされていた表現を、「行動の許可者」を高くする、とした点
- ・一部の文法書で述べられているような「光栄に思う」⁵という概念を外した点

4.3 「～(さ)せていただく」のタイプ分類

「～(さ)せていただく」は、その活用語尾の形によって「表現意図」が「宣言」や「許可求め」など様々に変化するが、①の「許可」の意を得た」表現の意味が含まれることは、変わらず必要なものである。本研究では特にここに注目して分析を行うことから、「～(さ)せていただく」を次のように分類することにした。

タイプA 「本来の意味」の用法

(本当に)「ある行動を行う許可を得た」という意味

+「恩恵間接尊重」の意味がある場合

「行動の許可者」が、本当に「許可」をした(する)場合。「…に～(さ)せていただく」の「…」の部分に具体的な人物を入れて言い表すことができる。

例：「先生にビデオカメラを使わせていただいた。」

「授業を早退させていただけますか？」

どちらも「行動の許可者」＝「先生」

タイプB 「許容範囲」の用法

「あたかも許可を得た」意味

+「恩恵間接尊重」の意味があると見立てることができる場合

「行動の許可者」が、「許可」をした(する)と見立てることができる場合。「…に～(さ)せていただく」の「…」の部分に具体的な人物を想定し言い表すことができる。

例：「(新聞記事で)敬称は、省略させていただきます。」

「行動の許可者」=読者

「先日は、お邪魔させていただきありがとうございました。」

「行動の許可者」=相手

タイプC 「検討を要する」用法

「あたかも許可を得た」意味

+「恩恵」の意味があるとは捉えられない場合（間接尊重の意味はあると思われる）
「行動の許可者」を特定することができず、「…に～（さ）せていただく」の「…」の部分に具体的な人物を入れて言い表すことができない。

例：「弊社は新製品を（？ に）開発させていただきました。」

「夏休みは（？ に）沖縄に旅行させていただきます。」

以上の分類は、「許可」の意を得る」ことに最も注目したものであるが、判定はその他の性質を加味して、総合的に行うものとする。この分類方法は、「…に～（さ）せていただく」の「…」の部分に「行動の許可者」を想定してみることを基準に、「～（さ）せていただく」をA、B、Cの3分類に大別するもので、日本語学習者にとっても、使用方法の判別が容易であるよう配慮したものである。

5. 実例調査について

5.1 目的

日本語母語話者における「～（さ）せていただく」の実際の使用例を調査し、現時点での「～（さ）せていただく」という表現の用法を分類、整理する。ここから「本来の意味」の用法、「許容範囲」の用法、「検討を要する」用法の実態を明らかにするとともに、現在の使用傾向を考察することを目的とする。

5.2 仮説

- (1) 「～（さ）せていただく」の現在の使用の中心は、「本来の意味」から「許容範囲」や「検討を要する」用法へ移行しているのではないだろうか。
- (2) 「～（さ）せていただく」の「行動の許可者」は「相手」ではなく、「第三者」である場合があるのではないだろうか。

5.3 調査の対象

使用コーパス：日経テレコン 21

日本経済新聞、日経産業新聞、日経金融新聞、日経流通新聞の全記事（地方版、土曜日別冊「日経プラスワン」を含む）

選 定 理 由：新聞記事の全文検索を行うことにより、「～（さ）せていただく」の使用傾向を明らかにすることが期待できるため。

文字媒体だが談話部分を併せ持ち、文体もさまざまであるため、大まかな傾向の把握ができると考えたため。

検 索 条 件：上記4紙全文記事から、キーワード「せていただ」を含むものを検索する。

調査対象期間：2002年5月29日～2003年5月28日 一年分

5.4 分析方法と結果

キーワード検索の結果、合計107の使用例を得たが、ここから「～(さ)せていただく」以外の用法(にじませていただけ、寄せていただけ、(果物を)のせていただきます など)を除く92例を分析対象とした。

- ・記事全文より「～(さ)せていただく」の用法を判定し、タイプ別に分類する。
- ・「～(さ)せていただく」を「行動」、「行動の許可者」、「利益」、「恩恵」などの観点から分類し、使用実例の性質を分析した。
- ・分析には第二認定者を立て、筆者が抽出した10例(表3中の*)の認定とマッチングを共に行った。それに基づき、使用例全体の認定を確認し、タイプ分類を決定した。
- ・表1の項目によって分類した92の例文を、タイプ別にまとめた結果が表3である。
- ・表2には、「～(さ)せていただく」出典記事の種類別・タイプ別数をまとめた。
- ・表3には例文の「～(さ)せていただく」を含む部分のみを記載したが、分類を行う際には記事全文から判断して作業を行った。
- ・併せて「～(さ)せていただく」を使用して表現する動詞と表現形式を集め、タイプ別の特徴について分析を試みた。
- ・「～(さ)せていただく」の「行動」、「行動の許可者」、「利益」、「恩恵の有無」を明らかにした。

表1 分類項目の意味

	分類	意味
No.	1～92	検索結果日付による出順
出典	K	日本経済新聞
	R	日経流通新聞
	S	日経産業新聞
	Y	日経金融新聞
	P	日経プラスワン
種類	談(談話)	「」内に記載されたもの 表記方法_____?_____。の形で現れたもの
	記(記事)	一般記事に現れたもの
	エ(エッセイ)	コラムや連載エッセイなど、作者の心情が描かれているもの
	注	編集部からの「お断り」や「注意書き」
行動	J: 自分 A: 相手 K: 行動に関係する人物	「～(さ)せていただく」が表す行動を行う人物
許可者		「…に～(さ)せていただく」が表す「…に」に入る、行動を許可する人物
利益		「～(さ)せていただく」が表す行動で利益を得る人物
恩恵	+	「～(さ)せていただく」が表す行動に「自分」が恩恵を感じている
タイプ	A	(本当に)「ある動作を行う許可を得た」という意味+「恩恵間接尊重」の意味がある場合 「許容範囲」の用法
	B	「あなたも許可を得た」という意味+「恩恵間接尊重」の意味があると見立てることができる場合 「本来の意味」の用法
	C	「あなたも許可を得た」という意味+「恩恵間接尊重」の意味があると捉えられない場合 「検討を要する」用法

表2 「～(さ)せていただく」出典記事の種類別・タイプ別数

種類	談話	エッセイ	記事	注	合計
タイプA	4	1	—	—	5
タイプB	43	5	1	6	55
タイプC	26	5	1	—	32
合計	73	11	2	6	92

表3 新聞コーパスにおける「せていただく」を含む例文のタイプ別分類

出典各紙：K = 日本経済 R = 日経流通 S = 日経産業 Y = 日経金融 P = 日経プラスワン

タイプA

J = 自分 K = 相手
右側No.に付加した*は、第二認定者と認定を合意させたもの

No	出典	種類	使用例文	動詞	表現形式	行動	許可者	利益	恩恵	タイプ	No
9	K	談	ご予約いただいた旅行を中止させていただきますが、	中止させて	いたさないのですが	J	A	J	+	A	9
18	K	談	明日また休ませていただけないでしょうか、	休ませて	いたさないでしょうか	J	A	J	+	A	18
26	K	談	向田邦子さんの自伝のノベライズ一つまり小説の仕事をしていただいていた。	させて	いたさないでいた	J	K	J	+	A	26
29	K	談	本日以降、週一回の頻度で採問をさせていただきます。	させて	いたさない	J	A	J/A	+	A	29
41	K	談	球壇に現る名選手の木塚さんとコンビを組ませていただいたのが、	組ませて	いたさないのが	J	K	J	+	A	41

タイプC

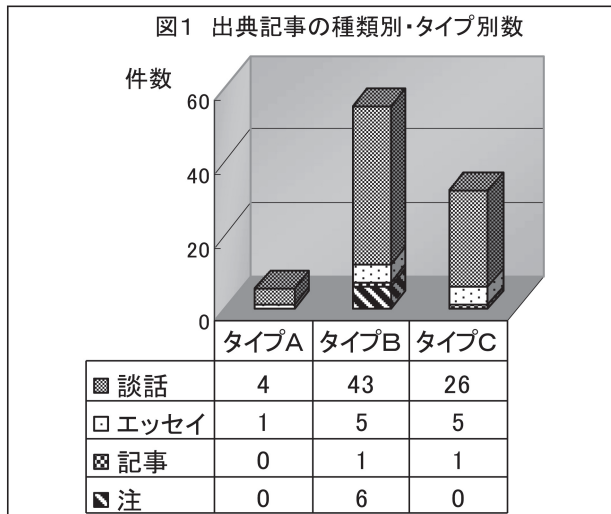
No	出典	種類	使用例文	動詞	表現形式	行動	許可者	利益	恩恵	タイプ	No
3	S	談	現期には通算して三十年勤務させていただきました、それぞれの現場で地域の皆様に	勤務させて	いただきました	J	?	J	+	C	3
4	K	談	安全な運搬に支障がないことを回として確認させていただきました。	確認させて	いただきました	J	?	J/A	+	C	4
6	K	談	ここはお許しをいただいで書かせていただくことにする。	書かせて	いただきました	J	(A)?	J	+	C	6
8	Y	談	工場の一つとして構築させていただきました	構築させて	いただきました	J	?	J	+	C	8
13	K	談	発車直前の後も、この番組の可否だけは続けさせていただきました	続けさせて	いただきました	J	?	J	+	C	13
15	Y	談	感銘を新しくしながら仕事をさせていた	させて	いただきました	J	?	J	+	C	15
19	P	記	2月3日付日経ウィークリー紙上で紹介させていただきました。	紹介させて	いただきました	J	?	J	+	C	19
20	Y	談	私の立場からコメントするのはこれくらいにさせていただきます。	させて	いただきました	J	?	J	+	C	20
23	K	談	一年四ヶ月の経きにわたり、治療させていただきましたので、今場所休むという	治療させて	いただきました	J	?	J	+	C	23
24	K	談	来年はもう少し目えさせていただきますかもしれない。	目えさせて	いただきます	J	?	J	+	C	*24
27	K	談	その頂点をなす北宗・清宗について、思いづくままに述べていただきます。	述べて	いただきます	J	(A)?	J	+	C	27
28	K	談	公務員人生で非常にいい経験させていただきました。	させて	いただきました	J	?	J	+	C	28
30	K	談	地域に根ざす金融機関を目指すため、継続させていただきます	継続させて	いただきます	J	?	J	+	C	30
33	Y	談	地域に根ざす金融機関を目指すため、継続させていただきます	継続させて	いただきます	J	?	J	+	C	33
34	K	談	地域に根ざす金融機関を目指すため、継続させていただきます	継続させて	いただきます	J	?	J	+	C	34
35	K	談	しかるべき時期に明らかにさせていただきます。	させて	いただきます	J	?	J	+	C	*35
38	K	談	四階福徳街の発展へ気持ちいい汗をかかせていただきます。	かかせて	いただきます	J	?	J	+	C	38
39	K	談	次回が楽しみにも思えたので、取り上げさせていただきます。	取り上げさせて	いただきます	J	?	J	+	C	39
42	K	談	念力を挙げて当たらせていただきます。	当たらせて	いただきます	J	?	J	+	C	42
45	K	談	どうしても電車の時間が間に合わず、三人目の方から、聞かせていただきます。	聞かせて	いただきます	J	K	J	+	C	45
46	S	談	ドクターと言う肩書きは役に立つのであり、聞かせていただきます。	使かせて	いただきます	J	?	J	+	C	46
53	R	談	これからがやがやと続きます。	やらせて	いただきます	J	?	J	+	C	53
56	K	談	今頃は詩やお話とともに歌集の中から連作を三つほど際立たせていただきます。(まま 誤用)	際立たせて	いただきます	J	?	J	+	C	56
60	K	談	(これからは撮影を)真剣に深く、頑張らせていただきます。	頑張らせて	いただきます	J	?	J	+	C	60
61	K	談	純正法に使い覚悟させていただきます。	使辱させて	いただきます	J	?	J	+	C	61
68	K	談	今年の夏はなんと活用させていただきます。	活用させて	いただきます	J	?	J	+	C	68
70	K	談	私は本当に華々たる九周年を過ごさせていただきました。	送らせて	いただきます	J	?	J	+	C	70
76	K	談	政権交代を契機とするために、これからは身を粉にして働かせていただきます。	働かせて	いただきます	J	?	J	+	C	76
81	S	談	基本的に自由にやらせていただきます。	やらせて	いただきます	J	?	J	+	C	81
82	K	談	夏休みについては、今後の参考とさせていただきます。	させて	いただきます	J	?	J	+	C	*82
84	K	談	金融機関で引き受けていくことになれば、体力、身の丈に底じた勝力をさせていただきます。	させて	いただきます	J	?	J/A	+	C	84
89	K	談	顧問交際は「顧問二期は予定通りやらせていただきます」と	やらせて	いただきます	J	?	J	+	C	89

タイプB

No	出典	種類	使用例文	動詞	表現形式	行動	許可者	利益	恩恵	タイプ	No
1	K	注	当議者の発表は絶望をもってかえりだささせていただきます。	かえらせて	いただきます	J	A	J		B	1
2	K	注	日本経済協会の二度務めさせていただきます、多少なりとも業界のお役に	勤めさせて	いただきます	J	K	J	+	B	*2
3	K	談	熊鷹の閉居計画に参加させていただきます。	参加させて	いただきます	J	K	J	+	B	5
4	S	談	熊鷹とこの症候群の通訳が立つまでは絶望させていただきます。	絶望させて	いただきます	J	A	J	+	B	7
5	S	談	政府機関であるもの、インセンティブを与え報酬制度は使わせていただく	使わせて	いただきます	J	K	J	+	B	10
6	K	談	おおい戻しの事情を返らせていただきます。	返らせて	いただきます	J	A	J	+	B	11
7	K	談	今後同僚の場で議案をもって協議させていただきます。	協議させて	いただきます	J	A	J	+	B	12
8	K	談	多くの人からその苦難金を始報に使わせていただきます。	使わせて	いただきます	J	K	J/A	+	B	14
9	K	談	現時点での氏名公表は差し控させていただきます。	差し控させて	いただきます	J	A	J	+	B	*16
10	K	談	そこだけ繰り返していただけないかと、私は、金融機関は	言わせて	いただきます	J	K	J	+	B	17
11	K	談	面づくしで語るものならどうも悪いと、というので聞かせていただくことにした。	聞かせて	いただきます	J	K	J	+	B	21
12	K	談	ベネズエラでもう一度やらせていただくと思う。	やらせて	いただきます	J	K	J	+	B	22
13	K	談	お客様には個別にお返りさせていただきます。	お返りさせて	いただきます	J	A	J	+	B	*25
14	K	談	帰ってきたときに個別に思いついては、いろいろ聞いて聞かせていただく。	聞かせて	いただきます	J	K	J	+	B	31
15	K	談	様々な段階ではありますので、コメントを差し控させていただきます。	差し控させて	いただきます	J	K	J	+	B	32
16	K	談	受取を止めたいのは、近所の戸を叩くことのでき、良かつた	叩かせて	いただきます	J	K	J	+	B	36
17	K	談	親身は興味深、深まさせていただきます。	深まらせて	いただきます	J	K	J	+	B	37
18	K	談	ご説明やせていただきます。	やせて	いただきます	J	A	J	+	B	38
19	S	談	一部医師やせていただきます。	やせて	いただきます	J	A	J	+	B	40
20	S	談	このひの交際を代表してお返させていただきますと考っております。	お返させて	いただきます	J	K	J	+	B	43
21	S	談	彼方なから業の発展に携わらせていただくことが、交員に結びついた	結びつけて	いただきます	J	K	J	+	B	44
22	P	記	彼方の又平から引用させていただきます。	引用させて	いただきます	J	K	J	+	B	47
23	K	談	コメントを控させていただきます。	控させて	いただきます	J	A	J	+	B	47
24	K	談	意見交換させていただきます。	意見交換させて	いただきます	J	A	J	+	B	48
25	Y	談	しっかりと対応させていただきます(余談)本来の目的だ。	対応させて	いただきます	J	K	J	+	B	49
26	Y	談	いろいろな試練結果はあるが、具体的なケースについては差し控させていただきます。	差し控させて	いただきます	J	K	J	+	B	50
27	Y	談	様々な角度から幅広い意見を聞かせていただきます。	聞きかせて	いただきます	J	A	J	+	B	51
28	K	談	中野さんには交際精神を学ばせていただきます。	学ばせて	いただきます	J	K	J	+	B	52
29	Y	談	貸付金利を今の三倍に上げさせていただきます。	上げさせて	いただきます	J	K	J	+	B	54
30	Y	談	同世代ということもあって、交友を深めさせていただきます。	深めさせて	いただきます	J	K	J	+	B	55
31	K	談	訪問介護でつかんだお客様は、最後まで笑顔を見させていただきます。	見させて	いただきます	J	K	J	+	B	57
32	R	談	これにて一巻の終わりとさせていただきます。お粗末さまでした。	させて	いただきます	J	A	J	+	B	58
33	R	談	海外にも親度となく一層させていただきます。	させていただきます	いただきます	J	A	J	+	B	*59
34	S	談	オーナーは確れた顧客データベースを持っていただきます。	持たせて	いただきます	J	K	J	+	B	62
35	R	談	オーナーは確れた顧客データベースを持っていただきます。	持たせて	いただきます	J	K	J	+	B	63
36	K	談	当議者の発表は絶望をもってかえりだささせていただきます。	かえらせて	いただきます	J	K	J	+	B	64
37	K	談	ひとつ思い切り非常識な提案させていただきます。	お付き合いさせて	いただきます	J	K	J	+	B	65
38	K	談	たが国国の経済について少し言わせていただくこと、弊気自体は引き続き回復基調に	言わせて	いただきます	J	A	J	+	B	66
39	Y	談	衆議院議長に議員職を提出させていただきます。	提出させて	いただきます	J	K	J	+	B	67
40	K	談	政府交代を証明するための一度、出馬させていただきます。	出馬させて	いただきます	J	A	J	+	B	*69
41	K	談	要するは目いっぱい使わせていただきます。	使わせて	いただきます	J	K	J	+	B	71
42	K	談	要するは目いっぱい使わせていただきます。	使わせて	いただきます	J	K	J	+	B	72
43	K	談	要するは目いっぱい使わせていただきます。	使わせて	いただきます	J	K	J	+	B	73
44	K	談	要するは目いっぱい使わせていただきます。	使わせて	いただきます	J	K	J	+	B	74
45	Y	談	何れ、かの余計な言葉を(自分を指す)に控させていただきます。	控させて	いただきます	J	A	J	+	B	75
46	K	談	東山部長の御意見を伺い、いかなる質問にもコメントさせていただきます。	お付き合いさせて	いただきます	J	A	J	+	B	76
47	K	談	その間にわたって、熊鷹フットというイベントを開催させていただきます。	お付き合いさせて	いただきます	J	K	J	+	B	77
48	K	談	東山の熊鷹部長が、お付き合いさせていただきます。	お付き合いさせて	いただきます	J	A	J	+	B	78
49	K	談	東山の熊鷹部長が、お付き合いさせていただきます。	お付き合いさせて	いただきます	J	K	J/A	+	B	79
50	K	談	東山の熊鷹部長が、お付き合いさせていただきます。	お付き合いさせて	いただきます	J	A	J	+	B	80
51	K	談	東山の熊鷹部長が、お付き合いさせていただきます。	お付き合いさせて	いただきます	J	A	J	+	B	83
52	K	談	東山の熊鷹部長が、お付き合いさせていただきます。	お付き合いさせて	いただきます	J	A	J	+	B	85
53	P	注	当議者の発表は絶望をもってかえりだささせていただきます。	かえらせて	いただきます	J	A	J	+	B	86
54	Y	談	当議者の発表は絶望をもってかえりだささせていただきます。	かえらせて	いただきます	J	A	J	+	B	87
55	P	注	当議者の発表は絶望をもってかえりだささせていただきます。	かえらせて	いただきます	J	A	J	+	B	88
56	P	注	当議者の発表は絶望をもってかえりだささせていただきます。	かえらせて	いただきます	J	A	J	+	B	*90
57	P	注	当議者の発表は絶望をもってかえりだささせていただきます。	かえらせて	いただきます	J	K	J	+	B	91
58	K	談	当議者の発表は絶望をもってかえりだささせていただきます。	中止させて	いただきます	J	A	J	+	B	92

5.5 考察

5.5.1 記事の種類について



① 「～(さ)せていただく」

は「談話」に集中している

調査結果より、新聞記事に現れる「～(さ)せていただく」は、インタビューや記者発表などの「談話」に集中していることが分かった。これは「～(さ)せていただく」の「本来の意味」が「使役」、「恩恵 間接尊重」により「相手」に配慮をする性格であることに基づいていると考えられる。「談話」中では、新聞記事に取り上げられるような「改まり」の高い「場」で、その発話の

「相手」に対して強い配慮が表現されやすいと考えることができる。

例：タイプA 「ご予約いただいた旅行を中止させていただきたいのですが。」

タイプB 「このたびの受賞は、業界を代表して拝受させていただいたと考えております。」

タイプC 「国際福祉都市の実現へ気持ちのいい汗をかかせていただきたい。」

② 「エッセイ」の「～(さ)せていただく」はタイプB、Cが中心

エッセイ中の「～(さ)せていただく」はタイプAの使用が1例だけで、タイプB、Cに各5例見られた。それらは「書く」「述べる」などの「その叙述の中で行っている単なる自分の行為の宣言」の傾向があった。新聞という紙媒体での記述は「相手」とコミュニケーションを取ることができない一方的な「行動展開」であるが、それでも「相手」に配慮しようとする、「許可」や「恩恵」の意味のない「宣言表現」になってしまうのではないだろうか。

例：タイプB 「(高速道路の料金問題について) ひとつ思い切り非常識な提案をさせていただきます。」

③ 「記事」には「～(さ)せていただく」はほとんどない

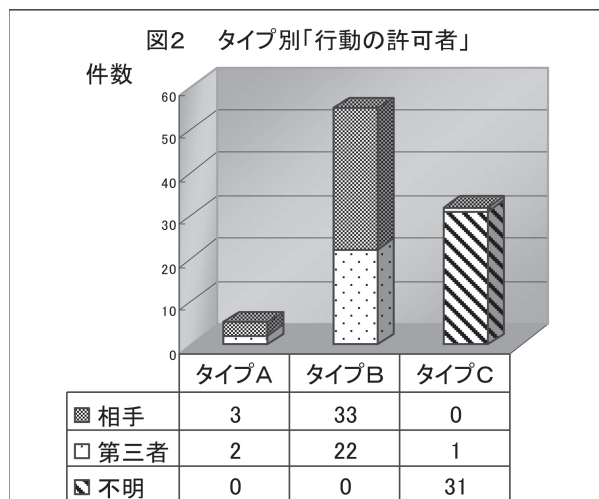
一般記事中に「～(さ)せていただく」はほとんど使われていなかった。一般記事は事実の描写や伝達が目的の簡潔な文で構成され、読者への待遇は期待されないため、その意味でこの結果は当然なことであると考えられる。

④ 「注」の「～(さ)せていただく」は限定されている

注で使われる「～(さ)せていただく」の表現は「発送をもって代えさせていただきます

す。」に限定されていて例外はなかった。このような表現は、その「表現意図」に関わらず、常に「～(さ)せていただく」を使用して表現すると広く一般に認識された「定型表現」として、すでに定着しているのではないかと考える。

5.5.2 「行動の許可者」について



①タイプAは少なく、タイプB、Cが多い

「許可者」が本当に「許可」をする場合（「本来の意味」の用法）のタイプAは少なく、「許可者」を想定できる場合（「許容範囲」の用法）のタイプB、特定できない場合（「検討を要する」用法）のタイプCが圧倒的に多かった。この結果から、現時点で新聞記事に登場する「～(さ)せていただく」は、「本来の意味」が薄れ、使用の中心が「許容範囲」に

移行している傾向が分かった。

例：タイプA 「明日、また休ませていただけないでしょうか。」

タイプB 「日本紡績協会会長を二度、務めさせていただきます…。」

タイプC 「(拉致問題解決に) 全力を挙げて当たらせていただきたい。」

②タイプBは、「許可者」が「相手」と「第三者」

タイプBは、合計55例と最も多く、「「本来の意味」と見立てることができる」程度の使い方が非常に多いことが分かった。表現形式から見ると、タイプAと比較して「許可求め表現」から、「～(さ)せていただきます」「～(さ)せていただく」など「宣言表現」を含むグループに移行していることが分かった。内訳は、「理解要請表現」⁶17例に対し、「行動展開表現」⁷38例と、「相手」に対する「宣言」を行うものが主な表現だった。しかし、「許可者」が「第三者」であるもの22例の内訳は、「行動展開表現」（「～(さ)せていただく」という表現形式）6例のみに対し、過去の行動を述べた「理解要請表現」は16例だった。このことから、タイプBでは、「行動の許可者」が「相手」の場合は「宣言表現」が多く、「許可者」が「第三者」であると想定できる場合は「理解要請表現」が多くなっていることが分かった。「許可者」が「第三者」である「行動展開表現」は、「本来の意味」から外れると考えているが、6つの例文を観察してみると、その「許可者」は、新聞記事という性質に関連して、「政府の機関」や「拉致被害者の会」など、「常識的に見て高くするのが自然」である対象であった。（1例が「横浜ベイスターズ」であったのは、検討を要する。）

例：「許可者」が「相手」 「お払い戻しの書類を送らせていただきます」

「許可者」が「第三者」「多くの人からの支援金を治療に使わせていただきました」

③タイプCの「許可者」は「不明」

例文数が32例、そのうち「行動展開表現」は15例と約半数だった。それは、「～(さ)せていただく」「～(さ)せていただきたい」などの「宣言行為」の表現形式で、「許可者」は「広く世間一般」というような意味合いの、はっきり特定できないものだった。「理解要請表現」の場合の「許可者」も同様である。これは、「高くする」べき「相手」のない、単に「自分」を「高くしない」ためだけに使われた「間接尊重語」の用法と考え、検討を要するのではないだろうか。「恩恵」という点からは、過半数がこれを表現していると判定した。「恩恵」は、タイプAからタイプCまでを通じ、「～(さ)せていただく」という表現で表したかったことの大きな点にあげられると考えられる。

5.6 まとめ

新聞記事に登場した92の使用例中、「～(さ)せていただく」の「許容範囲」の用法であるタイプBと、「検討を要する」用法のタイプCが圧倒的に多かった。この結果から、現時点で新聞記事に登場する「～(さ)せていただく」は、「本来の意味」が薄れ、使用の中心が「許容範囲」、「検討を要する」用法に移行している傾向が分かり、仮説(1)が明らかにされた。

特徴として観察されたのは「行動の許可者」は誰か、ということである。タイプAでは「相手」であったが次第に「行動に関係する人物」の割合が増加していくこと、タイプCは「許可者」が特定されない使用法になっていることが確認された。これは、タイプCに行くほど「理解要請表現」が増加することとも関連していると考えられる。また、新聞に取り上げられるような公的な場での発言が多いという性格上、「行動の許可者」は政府や公的団体、公人などが想定される例が多く見受けられた。これは、「行動の許可者」が「本来の意味」から外れる「第三者」の場合も、「～(さ)せていただく」が多用される事実と関係があるのではないかと考えている。以上のことから、仮説(2)の、「行動の許可者」は「相手」ではなく、「第三者」である場合があるということも明らかになった。

「～(さ)せていただく」はほとんどが記事中の談話に見られる表現だったが、エッセイなどの文章にも若干使用が見られた。文章中の使用では「許可」の意味を持たない用法が多い傾向が見られたが、これは談話が「相手」に対して行う発話であるのに比較し、文章は「相手」に直面しているわけではない、という性質の違いによるものと考えられる。表現形式にもタイプ別に多少の差が見られ、タイプAでは、疑問形で実際に許可求めを行う形のものや、過去形が多かった。タイプBは「宣言表現」が多かったため、「～(さ)せていただきます」、「～(さ)せていただく」の使用が目立った。タイプCでは「理解要請表現」が半数にまで増えてくるため、「～(さ)せていただいた」などの過去形が増えていた。

使用された動詞にはタイプ別に特に大きな違いがないようだった。また、「表現意図」に関わらずに常に「～(さ)せていただく」を用いる「定型化」した使用もあることが分かった。「恩恵」の意を感じさせる例文も50例あり、A～Cのどのタイプにも現れていた。タイプAでは全ての例文に「恩恵」が感じられた、タイプB、タイプCでは約半数だった。以上の性質は「新聞記事の調査」という「～(さ)せていただく」の限定された使用例で

あるため、得られた傾向をすぐに一般化することはできない。しかし、現時点での「～(さ)せていただく」使用が仮説に示したように変化してきている傾向は、視野に入れることができるのではないだろうか。

6. 日本語教科書からの問題点

6.1 「～(さ)せていただく」の位置づけ

新聞記事における「～(さ)せていただく」の最近の使用傾向が明らかになった。この結果を、どのような形で日本語教育の現場に反映させることができるだろうか。

日本語能力試験出題基準において、「～(さ)せていただく」は表4のように分類されている。

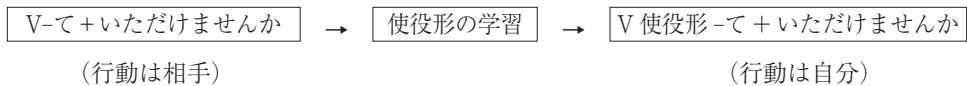
表4 日本語能力試験出題基準における「～(さ)せていただく」

使役	V(サ)セル	私は弟に部屋の掃除をさせた。(強制) 妹を泣かせてはいけません(誘発)	3級
受給:行為	—テイタダク	私は高校のとき、鈴木先生に英語を教えてくださいました。	3級
敬語:謙譲語	—(サ)セテイタダク	先生の辞書を利用させていただきました。	2級

これを基に、初級、中級日本語教科書では「～(さ)せていただく」がどのように扱われているかを調査した。調査対象は、『日本語教材リスト』(2003)の「総合教科書」から最近3年間に出版されたものを中心⁸に、広く使用されている総合教科書、ビジネス教科書を追加した34冊(初級23冊、中級11冊)の教科書とした。

6.2 初級教科書の取り扱い

初級における提出順序はおおむね次のような流れである。



ここで取り上げている表現意図は、許可求めが主流で、「休ませていただけませんか」、「休ませていただきたいんですが…」の表現に止まることが多い。宣言表現が出てくるものもあったが、学習者にとっては教科書に登場する限られた場面でしか使用できないのではないと思われる内容で、ここから表現を応用させる狙いは感じられなかった。

JBPⅢ教師用指導書では、「許可求め」と「謙遜表現」を分けて解説してあり、過剰な使用に注意を促していたが、扱われている表現形式は限られ、「恩恵」を受けるという説明はなかった。

今回調査した20冊全ての初級教科書で、「使役」+「受給動詞」の表現が取り扱われていたが、そのうちの約半数の12冊に「～(さ)せていただく」という表現は提出されていなかった。これは、「～(さ)せていただく」が、日本語能力試験出題基準2級に分類され

ていることによるものと思われる。また、「～(さ)せていただく」を取り扱っている教科書の意味説明では、「恩恵を受けるのは自分である」ことまでに言及したものはほとんどなかった。

6.3 中級教科書の取り扱い

中級教科書の中で、読解中心の教科書では「～(さ)せていただく」が取り上げられていないことが多かった。使用調査で「～(さ)せていただく」は、新聞記事中にはほとんど登場せず、エッセイなどにわずかに見られたのみであった傾向から、説明文などが中心の教材には、自然な流れの中で「～(さ)せていただく」が使われることが少ないものと考えられる。これに対し、ビジネスマン向けの教材には必ず取り上げられていたが、これは「～(さ)せていただく」が談話に多く現れる表現であること、ビジネス場面や公式の場で使用される表現である性質によるものと考えられる。

ビジネスマン向けの教材では、「～(さ)せていただく」が含む複雑な表現意図を細かく説明することは省略し、「成句」のようなものとしてその場面にあてはめて使用する学習になっている傾向があった。意味説明では、「婉曲な非常に丁寧な言い方である」という単純なものに終わっているものがほとんどであった。

6.4 日本語教科書調査のまとめ

「～(さ)せていただく」は初級で必ず扱う表現ではない反面、日常会話や改まった場で発表や会話をするなどの状況において、自然な流れで必要とされる表現だと考えている。しかし、日本語能力試験出題基準2級に分類されているため、初級で十分に学習されないまま中級に進んだ場合、読解中心の中級教科書だけでは、「～(さ)せていただく」のさまざまな表現形式を学習する機会に恵まれない恐れがあるということが分かった。そこで、学習段階に応じて、以下のような導入順序で教科書以外の教室活動の中に取り入れることが、現在の母語話者の使用状況を考慮していると言えるのではないか。

タイプA 「本来の意味」の用法

初級、中級で、「～(さ)せていただく」の基礎として学習する必要がある。

タイプB 「許容範囲」の用法

使用される頻度が高いので、中級では、理解する必要がある。

特に「定型表現」は、早い時期（初級においても自然な文脈化ができる場合は導入する）に、知識を得ておく必要がある。

タイプC 「検討を要する」用法

実際の生活上、中級後期および上級において、知識としては必要がある。

導入の際は、「～(さ)せていただく」の「本来の意味」を説明し、「行動の許可者」からの「恩恵」を意味するものであり、「行動の許可者」を「高く」、「自分」を「高くしない」意味を持つということを理解させることが大切であると考え。具体的には「…に～(さ)せていただく」の「…」に入る人物を想定する方法で、使用できる場面とそうでないものを判断できるように導入し、過剰な使用への注意や非言語行動との関連についても触れる

ことが大切だと考える。

中級に進んだビジネスマンであれば、実際の業務において「～(さ)せていただく」という表現に遭遇する機会も多いと思われるが、現在の中級教科書では、その際適切な判断ができるような説明が充分になされてはいないと感じた。「～(さ)せていただく」で表現された「文話」の意味を適切に理解し、使用する場合は「人間関係」や「場面」を選び、「文話」全体のバランスを考えながら、「本来の意味」に沿った使い方をするように、多様な表現形式を導入して行くことが望ましいと考える。また、タイプBやタイプCの用法が多いという事実に沿って、それらの意味と使用する危険性を理解できることも必要であろう。

「～(さ)せていただく」のこのような面は、待遇表現および敬語の提出時期やその方法全体にも関わる問題なのではないだろうか。そこで、初級において従来のように「敬語」学習だけをまとめた課を作る方法や、積み上げ式の文法学習順序による方法を部分的に見直すことも必要であると考え。この点について川口(1987)は、4点の主要な教科書の分析から二つの問題点をあげている。

- (1) 敬語を学習項目の中心とする課が、文型の形式で文法要素を学習項目とする課と同等に配列されていること。
- (2) 敬語の語法上の解説が不十分な、あるいはなされていない場合があること。

川口(1987)では「問題点(1)は、敬語を適当な文脈で提示する可能性を狭め、(2)は教科書中の提示文中の敬語の用法が説明できないという問題点を生み出すほか、敬語使用のバラエティについて学習者の認識を高めないという作用を生み出す。」と述べている。教科書調査の結果、「～(さ)せていただく」についてもまさに同様なことが起こっていると思われた。

教室活動の適当な機会をとらえて、自然な文脈で用法を繰り返し提示することが「～(さ)せていただく」の複雑な表現意図を学習するためには重要であると考え。それには、少なくとも初級の段階から「～(さ)せていただく」の「本来の意味」を知り、適用の範囲と使用する危険性を同時に示していくことが大切なのではないだろうか。また、母語話者が「定型表現」と容認している具体例なども取り入れて、その意味と使用方法を必要な文脈の中で取り入れていくことも、自然な日本語の習得には有意義なのではないだろうか。

7. 今後の課題

「～(さ)せていただく」の使用事例調査において、「行動の許可者」が「第三者」である用例が多数出現した。これらの容認される範囲と基準はどのようなものかを調査し、明らかにしたい。また、学習者への「～(さ)せていただく」の導入において、「本来の意味」を理解しやすい具体的な指導方法とはどのようなものか、などの点を引き続き考えて行きたい。

【注】

- 1 記者会見での政治家の「深く反省させていただきたい」や、店員の「こちらはスーツをご用意させていただいております」などの表現。
- 2 菊地 (1997-b) 謙讓語 A は、話手が補語を高め、主語を低める(補語よりも低く位置づける)表現であり、謙讓語 B は、話手が主語を低める(ニュートラルよりも《下》に待遇する)表現であると定義されている。
- 3 本稿では、「～(さ)せていただきます」、「～(さ)せていただきたい」、「～(さ)せていただいた」など、実際に「文話」中に出現する形式をさすことにする。
- 4 蒲谷他 (1998) ある動作に間接的に関わる人物を〈高くする〉という「敬語的性質」と「恩恵」という性質を併せ持つ表現。
- 5 『日本語文型辞典』(1998) では、「～(さ)せていただく」について次のような例文と項目があげられている。(下線は筆者による)
 - ・《結婚式のスピーチ》新婦の友人を代表して、一言ご挨拶させていただきます。
 - ・《パーティーで》では、僭越ではございますが、乾杯の音頭をとらせていただきます。
 あいさつなどの前置きに使われる慣用的な表現で、その行為をすることを光榮に思っていると言う意味が含まれる謙讓表現。
- 6 蒲谷他 (1998) 自己の感情・認識、知識・情報などに基づく「表現内容」が「相手」に理解されることを「表現意図」とする「文話」。
- 7 蒲谷他 (1998) 自己の感情・認識、知識・情報などに基づく「表現内容」が「相手」に理解されるだけでなく、それによって「相手」あるいは「自分」(またはその「両者」)が何らかの行動を起こし、その「行動」で「表現内容」が実現されることを「表現意図」とする「文話」。
- 8 特定の母語話者を対象とした教科書などは除外した。

【参考文献】

- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵 (1998) 『敬語表現』大修館書店
 蒲谷 宏 (1999) 「特集：手のひらの言語学」『月刊言語』第 28 巻第 5 号 p74-p75、大修館書店
 川口義一 (1987) 「日本語初級教科書における敬語の扱われ方」『日本語教育』61 号 p126-p139、日本語教育学会
 菊地康人 (1994) (1997-b) 『敬語』講談社学術文庫
 菊地康人 (1997-a) 「特集：ポライトネスの言語学 変わりゆく「させていただく」」『月刊言語』第 26 巻第 6 号 p40-p47、大修館書店
 グループ・ジャマシイ (1998) 『日本語文型辞典』くろしお出版
 国際交流基金 (1994) 『日本語能力試験出題基準【改訂版】』凡人社
 李 炳萬 (1998) 「現代日本語の敬語「～(さ)せていただく」考」『野州国文学』61 p25-p52、國學院大學栃木短期大學
 日本語教材リスト編集委員会 (2003) 『日本語教材リスト』No.33 凡人社

【使用教科書】

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 『生きた素材で学ぶ中級から上級への日本語』 | ジャパントイムス |
| 『語学留学生のための日本語 II』 | 凡人社 |
| 『実力日本語 下』 | 東京外国語大学留学生日本語教育センター編著 |
| 『初級日本語』 | 東京外国語大学附属日本語学校編著 |
| 『初級日本語げんき』 | ジャパントイムズ |
| 『しんにほんごのきそII』 | 海外技術者研修協会編 |

『新日本語の中級 本冊』	スリーエーネットワーク
『新文化初級日本語Ⅱ』	文化外国語専門学校編
『テーマ別に学ぶ日本語中級』	研究社
『テリーとまい みんなの日本語』	OLJ ランゲージセンター
『トピックによる日本語総合演習』	スリーエーネットワーク
『日本語初級 Ⅱ』	東海大学留学生センター
『日本語初中級 理解から発話へ』	名古屋YWCA 教材作成グループ著
『日本語初歩』	国際交流基金日本語センター
『日本語中級 J501』	スリーエーネットワーク
『日本で暮らす人の日本語Ⅱ』	にほんごの会企業組合
『日本への招待』	東京大学出版会
『ビジネスのための日本語』	スリーエーネットワーク
『ビジネスマン物語』	ことばと文化センタービジネスセクション
『ひらけ日本語 下』	拓殖大学留学生別科・日本語研修センター編
『文化中級日本語』	文化外国語専門学校編
『みんなの日本語 初級Ⅱ本冊』	スリーエーネットワーク
『モジュールで学ぶよくわかる日本語』	アルク
『ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語』	アルク
『A Course in Modern Japanese』	ICI
『An Introduction to Modern Japanese』	The Japan Times
『Basic Japanese for Student』	東京工業大学留学生センター
『Business Japanese』	The Japan Times
『Elementary Functional Japanese』	アルク
『J. Bridge』	凡人社
『JAPANESE FOR BUSY PEOPLE Ⅲ』	AJALT
『JAPANESE for COLLEGE STUDENTS』	ICU
『Situational Functional Japanese』	筑波ランゲージグループ著
『Step Up Nihongo I 』	ICI